

平成28年度各部の重点取組の取組結果

部(局)名	選挙管理委員会事務局
事務局長名	吉川 英次

【基本姿勢】

選挙管理委員会のもと、民主主義の根幹である選挙が、公正かつ適正に行われるよう執行管理を行うとともに選挙人の利便の向上を図ります。
あわせてあらゆる機会を通じて選挙人の政治意識の向上に努め、選挙、投票参加の促進を図ります。

【達成度について】

- A：達成（設定した目標を達成することができた。）
B：一部達成（設定した目標の一部のみ達成することができた。）
C：未達成（目標達成に向け取り組んだものの、目標達成にはいたらなかった。）

【重点課題】

	重点課題	平成28年度 達成状況
1	効率的な選挙の執行	B
2	適正な選挙の執行	A
3	選挙人に対する利便の向上	A
4	選挙啓発活動のさらなる推進	A

部(局)名	選挙管理委員会事務局
-------	------------

重点課題 1	効率的な選挙の執行
--------	-----------

全体の達成度
B
一部達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	効率的な選挙の執行体制を確立し執行します。
---------------------	-----------------------

活動目標
執行経費の節減を図ります。
開票時間の適正化に努めます。

具体的な取組実績
7月に執行した参議院選挙において、選挙事務従事者への委託や派遣のスタッフの活用や、開票所での備品の効果的な活用方法を含めた作業工程の見直しにより、人件費の節減に取り組みました。また、用品の再利用に努め、支出の節減に取り組みました。
参議院選挙で、開票事務従事者の適正な配置や自書式投票用紙読取分類機（OCR）の効果的な活用方法を含めた作業工程全体の見直しに取り組みました。

達成目標
これまでの同種選挙と比べ執行経費の節減を図ります。
各選挙に応じた開票時間の適正化に努めます。

達成状況	達成度
参議院選挙の執行経費は、3年前の同種選挙に比べ、期日前投票期間の延長や使用できなくなった投票用紙自動交付機の更新、消費税増税などのやむを得ない理由で増額となりましたが、職員手当などその他の部分での節減を達成しました。	B 一部達成
従事者の適正な配置、自書式投票用紙読取分類機（OCR）の効果的な活用により、3年前の参議院選挙に比べ、開票時間を45分短縮することができました。	A 達成

総合評価・総括
7月の参議院選挙の執行経費は、期日前投票期間の延長や期日前投票所の増設、使用できなくなった備品の更新、消費税増税などのやむを得ない理由での増額や、公職選挙法が改正され選挙権年齢が引き下げられたことによる臨時啓発にかかる経費を要したことなどの影響があり、単純に過去の選挙と比べることは難しいところがありますが、従事者の適正な配置や備品の効果的な活用を含めた作業工程を綿密に見直すことで、人件費の節減、開票時間の短縮などの成果を得ました。

部(局)名	選挙管理委員会事務局
-------	------------

重点課題 2	適正な選挙の執行
--------	----------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	適正な選挙の執行体制を確立し執行します。
---------------------	----------------------

活動目標
事務局職員の法令・執行に係る情報共有と知識のレベルアップを図ります。
投票管理者（明るい選挙推進協議会委員）及び従事職員の法令・執行に係る情報共有と知識のレベルアップを図ります。
職員の選挙事務に関する意識の醸成とコンプライアンス意識の確立を図ります。

具体的な取組実績
国際文化アカデミー主催の研修と都道府県選挙管理委員会連合会主催の講習会にそれぞれ職員1名を派遣、また近畿都市選挙管理委員会連合会などが主催する事務研究会に計10回、延べ19名の職員が参加するとともに、職場内の事前研修も実施し、情報共有と知識のレベルアップに努めました。
投票管理者などに就任する吹田市明るい選挙推進協議会委員を対象に参議院選挙を想定した投票事務シミュレーションを行い、投票管理者と投票立会人の職務を始め、公職選挙法改正に伴う事務の取り扱いで留意が必要なことなどを重点的に研修し、情報共有と知識のレベルアップに努めました。
新規採用職員を対象に、事務局職員による研修を行い、自治体職員としての選挙事務に関する意識の醸成に努めました。

達成目標
事務局職員すべてが同レベルの選挙制度、選挙事務及び法令等の知識を共有します。
投票管理者（明るい選挙推進協議会委員）及び従事職員すべてが選挙執行における役割の認識と必要な選挙事務及び法令等の知識を共有します。
職員が選挙執行に必要な選挙事務及び法令等の知識と高いコンプライアンス意識を共有します。

達成状況	達成度
外部で行われる専門的な研修や講習会などに積極的に職員を派遣、参加させるとともに、職場内でも勉強会を催すなど、学ぶ機会を設けることで、職場全体の知識のレベルアップにつながりました。	A 達成
明るい選挙推進協議会主催の研修会や投票管理者と投票事務従事者を対象とした説明会の開催で、選挙執行における役割の認識を深めるとともに、選挙事務に関する知識を共有した結果、参議院選挙を適正に執行することができました。	A 達成
新規採用職員を始め、他部署の職員が事前研修や説明会を通じ選挙事務に関する理解を深め、期日前投票事務や投開票事務に従事した結果、大きなミスやトラブルもなく適正に参議院選挙を執行することができました。	A 達成

総合評価・総括

事務局職員が専門的な研修などを通してレベルアップを図ることはもちろん、投票管理者等に就任する明るい選挙推進協議会委員や選挙事務従事者となる他部署の職員にも常日頃から研修や説明会に参加する機会を設けることで、選挙事務に携わる者すべてが、コンプライアンス意識を向上できる体制を確立しました。その結果、7月の参議院選挙を管理執行上問題となることもなく適正に執行することができたものと考えます。

部(局)名	選挙管理委員会事務局
-------	------------

重点課題 3	選挙人に対する利便の向上
--------	--------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	選挙時において選挙人の利便の向上を図ります。
---------------------	------------------------

活動目標	具体的な取組実績	
投票所（期日前含む）、投票事務におけるバリアフリー化のさらなる推進を図ります。	各投票所の段差の有無や形状等の状況を把握し、スロープ設置などの必要な措置を講じました。また、投票所等の備品の購入時には、あらゆる選挙人を想定した選定に努めました。	
期日前投票所の改善及び投票区のスムーズな運営体制の確立を図ります。	期日前投票所は、参議院選挙執行に適したレイアウトを検討し開設しました。開設後も実際の導線を検証しながら日々見直しを行いました。また従事者には、すべての選挙人が選挙権を行使できるよう投票所での配慮についての説明を行い、実施に努めました。	
達成目標	達成状況	達成度
各投票所において職員接遇の向上と施設等におけるバリアフリー化のさらなる推進を図ります。	各投票所の実態調査を進め、スロープの設置や改修を行い、バリアフリー化を推進しました。また、選挙人の要望を参考に、投票所で必要とされる備品を検討し、参議院選挙ではすべての投票所に文鎮を備え付けました。	A 達成
有権者の利便向上のための投票所の設置見直しを行います。	地域からの要望を受け、調査、検討の結果、利便性の向上や施設の適正を考慮し、投票所施設の変更を行いました。また、選挙人に対しては投票所変更の周知に十分な期間を考慮し、案内の通知を送付しました。	A 達成
各投票区における選挙人の数等を考慮し、投票区の区割りの見直しを行うなど最適化を図ります。	投票区ごとの人口増減を日頃から注視し、適正な投票区割りの研究を継続しました。また、地域からの投票所設置要望に対しては、調査、検討を進めました。	A 達成

総合評価・総括
市内58か所の投票区について、地域からの要望や人口の増減を受け、投票区割りや投票所施設の変更を検討、実施するとともに、期日前投票所を含めた各投票所の現状の把握に努め、必要に応じてスロープの設置や改修、レイアウトの見直しを行うなど、あらゆる選挙人にとって選挙権を行使しやすい投票環境の実現に努めました。

部(局)名	選挙管理委員会事務局
-------	------------

重点課題 4	選挙啓発活動のさらなる推進
--------	---------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	投票率向上のための選挙啓発活動を推進します。
---------------------	------------------------

活動目標
18歳からの選挙権実施にあたり若年層の投票率向上のための啓発活動を実施します。
明るい選挙推進協議会との連携による啓発活動の充実を図ります。
市民への選挙に関する情報発信の機会を拡充します。

具体的な取組実績
新有権者およそ1万2千人への投票を呼びかけるメッセージカードの送付や、大学で3回、高校で3回の出前授業を実施しました。また参議院選挙では、関西大学での期日前投票所の開設、新有権者8名が投票立会人を体験するなどの啓発を実施しました。
明るい選挙推進協議会との共催で、小中学生を対象とした明るい選挙啓発ポスターコンクールや白バラ講座を開催しました。
明るい選挙推進協議会の機関紙「白ばらすいた」を1万5千部発行し、自治会での回覧や市内各施設や講座等イベントでの配布を行いました。

達成目標
学生等のボランティアによる啓発活動の支援を図ります。
市民向け啓発講座を実施します。
市民が選挙に関する情報に接する機会を拡充し、積極的な政治参加を促します。

達成状況	達成度
関西大学の学生ボランティアによるチラシや啓発物品の配布や、選挙人の誘導などの協力を得、同大学に期日前投票所を開設することができました。	A 達成
1月に明るい選挙推進協議会との共催で開催した「白バラ講座」では、関西大学政策創造学部の学生による若者の投票率向上のための政策提言を中心とした同学部教授や府立高校教諭による講演に、60名を超える市民の参加がありました。	A 達成
選挙権年齢が引き下げられた6月から新有権者に投票を呼びかけるメッセージカード送付事業を開始しました。また、明るい選挙推進協議会の機関紙「白ばらすいた」を1万5千部発行し、回覧や配布を行いました。	A 達成

総合評価・総括

平成28年度は、6月に選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを受け、若者を対象とした様々な啓発イベントを開催しました。7月の参議院選挙では、関西大学に開設した期日前投票所や、初めて投票できる18歳から20歳の新有権者に送付したメッセージカードが、新聞やテレビニュースで報道されるなど反響も大きく、若者の政治や選挙に対する意識の向上を目指す社会全体の取り組みと相乗効果が期待できました。その他、白バラ講座や新有権者の投票立会人体験でも、若者の声を届ける機会や、若者が前面に立つ機会を設けたことで、携わった若者だけにとどまらない啓発効果が期待できました。